

# 第15期 図書館運営3ヶ年計画

2019－2021

(令和元年度～令和3年度)

置戸町立図書館

## 1、策定にあたって

平成 27 年 4 月に「置戸町立図書館」と名称を戻し、地域の図書館として志を名実ともに新たに 4 年が経過しました。

この 4 年の間、地域を再び見つめる図書館として平成 28 年に「語りつぐ歴史と証言」を発刊し、歴史を大切にするという考えを継続する形で平成 29 年に地域資料デジタル化事業に着手いたしました。また、平成 30 年に置戸という地域の児童の新たな読書の指針となることを願って「おけとこどものほんだな」を改訂してきたところです。

それは全て図書館運営 3 ヶ年計画に基づいて実施いたしました。

3 ヶ年計画の曙光は、昭和 46 年に策定した第 1 期置戸町立図書館振興 3 ヶ年計画です。その計画にそって当時の図書館協議会の皆さんと職員で、置戸の図書館としての礎を築き、小さな町では図書館運営が難しいといわれていた時代に、一人当たり貸出率日本一を数度達成いたしました。以来 10 期、平成 19 年より生涯学習情報センター運営 3 ヶ年計画として 3 期、平成 28 年に図書館 3 ヶ年運営計画と名を戻し 1 期策定し、それに基づいて図書館運営を進めてきました。

今回の計画で数えて 15 期ということになります。

地域課題は依然として、少子高齢化を含む過疎問題、それに対する教育、福祉、あるいは地場産業などの経済問題等、オホーツクの山あいにある小さな町としてどう生きていくかが継続しての課題となっています。

そういう状況の中で図書館としてどうあるべきかを念頭に本計画を策定いたしました。

策定に参画していただいた現図書館協議会の皆様に感謝するとともに、歴史のある小さな町の小さな図書館として色々の事業、運営に参加し、図書館利用をしていただいている町民の皆様の特段のご支援とご協力をお願いいたします。

## 2、基本方針

置戸町は人口 3,000 人を割り、少子化そしてそれに伴う超高齢化、財政難等厳しい地域課題に 3 年前と同様以上、あるいは進行した形で直面しています。

そんな状況の中で置戸町立図書館としては、昭和 40 年の開設以来、「市民の図書館」の理念で大切にしてきた貸出サービス、児童サービス、全域サービスは現在でも基本サービスとして重要視していかねばなりません、さらに時代に求められる図書館運営が必要となってきました。

具体的には置戸タイムスのデジタル化による保存、そして他郷土資料のアーカイブ化をこの 3 年間の目標とします。

「おけとこどものほんだな」は第 14 期 3 ヶ年計画中に改訂作業をすませまし

たが、新たに0歳児対象のファーストブックプレゼントと小学校入学までの期間の読書をつなぐ指針「おけと絵本のほんだな」の策定をすすめます。

他に小中学生にはBM等による図書室との連携、各種事業、若い世代にはYA図書の充実、高齢者世代には大活字本の更新、各老人施設、団体との連携を進めます。

過去の歴史を大切にし、そして新たな読書要求に応える事によって現在の生活に寄与し、未来を考える図書館でありたいと考えます。

### 3、重点目標

- (1) 地域資料のデジタル化を実施し、新たな形での保存・提供を図る。
- (2) 0歳児から高齢者までの読書環境を整備し、心豊かな読書ができる機会を提供する
- (3) 置戸の暮らしや地域課題解決に役立つ資料の充実を図る。

### 4、資料の収集

#### (1) 資料の購入

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
購入冊数	5,000冊	5,000冊	5,000冊
寄贈冊数	200冊	200冊	200冊
除籍冊数	5,200冊	5,200冊	5,200冊
蔵書冊数	120,000冊	120,000冊	120,000冊
資料購入費	8,500千円	8,500千円	8,500千円
内基金繰入金	2,000千円	2,000千円	2,000千円

- ・平成33年度末蔵書冊数 120,000冊
- ・書架収容能力 約12万3千冊（当初9万冊）
- ・資料購入単価は、1,700円で推計した。
- ・除籍は、「業務基準」に基づき実施する。
- ・基金繰入は、資料購入費の25%を上限とする。

## (2) 分類別購入計画

分 類	令和3年度推計 (%)	令和元～3年度 (冊)
K. H. 郷土・北海道関係資料	0. 3 3	5 0
0. 総記	1. 2 0	1 8 0
1. 宗教・哲学・心理学	1. 8 7	2 8 0
2. 地理・歴史・伝記	4. 3 3	6 5 0
3. 政治・経済・福祉・教育	9. 4 3	1, 4 2 0
4. 自然科学	6. 1 3	9 2 0
5. 工学・建築・家事	9. 6 0	1, 4 4 0
6. 産業・農林業	4. 2 6	6 5 0
7. 芸術・スポーツ・工芸	7. 8 0	1, 1 7 0
8. ことば	0. 8 0	1 2 0
9. 文学	2 3. 1 0	3, 4 8 0
E. J. 絵本・児童書	2 9. 0 0	4, 3 5 0
P S. 紙芝居	0. 6 0	9 0
V. 視聴覚資料	1. 5 3	2 3 0
計	1 0 0. 0 0	1 5, 0 0 0

- ・ 選択は利用者の資料要求並びに「資料収集方針」に基づくものとする。
- ・ 地域や住民の暮らしに役立つ資料を積極的に収集する。
- ・ 生活関連の充実で5. 工学・建築・家事、大活字本の充実を図るため9. 文学をやや厚く算定した。

## (3) 逐次刊行物

- ・ 新聞 7紙以上 (平成30年度／中央紙4紙、道内紙1紙、地方紙2紙)
- ・ 雑誌 91タイトル (平成30年度／91タイトル)
- ・ 重要な逐次的情報として置戸町民の生活要求・情報要求にあわせ整備する。

## (4) 地域資料

- ・ 行政資料の収集・保存を推進する。
- ・ 町内で刊行された資料は漏れなく収集する。
- ・ ビデオ、DVD等の映像資料も系統的に収集する。
- ・ 北海道関係資料の精選、整理を行なう。
- ・ 置戸関連記事を収集する。
- ・ 郷土資料のデジタル化を図り町内外に公開する。

(5) 視聴覚資料

- ・映像資料や音声資料の充実を図る。
- ・インターネット利用の普及を図る。
- ・高齢者、障がい者が利用できるCD解説入DVD等の購入、充実を図る。

5、資料の管理

- ・配架、除架、除籍の円滑化を図る。
- ・書架の日常整理と延滞本の督促の徹底を図る。
- ・利用者端末の管理及び利用の促進を図る。
- ・毎年、蔵書点検を実施する。

6、貸出サービス

- ・平成30年度実績を基準とする。

(1) 資料の貸出

平成29年度利用状況(冊)

本館	ブックモバイル	団体貸出	合計
41,428	1,465	9,409	52,302

- ・利用の拡大を図るため、シニア層や施設を利用していない人への働きかけを積極的に行なう。
- ・集会行事を活用し図書館利用のPRを図る。
- ・「本の宅配」の周知及び利用を推進する。
- ・ブックモバイルの有効利用とステーションの見直しをおこなう。
- ・団体利用の促進を図る

(2) 対象別登録率(町内登録者のみ)

平成29年度登録状況(%)

区分	全体	幼児	小学生	中学生	高校生	一般 (18~60代)	高齢者 (70代以上)
登録率	52.1	17.9	104.2	117.8	158.8	59.9	26.5

- ・学校や子どもセンター等との連携を強化し新規登録の推進を図る。
- ・集会行事等において新規登録をPRする。
- ・老人クラブ等と連携し登録率を高める。

### (3) カウンター業務の充実

- ・予約サービス、リクエストサービスの充実を図る。
- ・レファレンスサービスの推進を図る。

平成 29 年度

予約図書	レファレンス
528冊	15件

## 7、こどもの読書環境の整備

- ・子どもの読書離れを防ぎ、子どもの読書を盛んにするため、学校、こどもセンター、児童センター、保健師との連携を強化し、児童サービスを充実する。DVDなど視聴覚資料を活用し、本への導入を図る。
  - ①学校図書室等との連携
  - ②読書週間・読書月間の開催
  - ③おけとこどもの本棚の普及
  - ④おけと絵本の本棚の制定
  - ④おはなし会・子どもシアターの開催
  - ⑤ブックモビルの巡回の充実
  - ⑥学校教諭、保育士、児童センター指導員、保健師などと連携したファーストブックプレゼント・フォローアップ事業の実施
  - ⑦小・中学生のボランティアグループの育成

## 8、シニア世代の読書環境の整備

- ・高齢者のライフスタイルや高齢者特有の情報要求に応えた資料を充実する。
  - ①高齢者・福祉団体との連携強化
  - ②本の宅配サービスの促進
  - ③ブックモビルの巡回の再編・ステーションの開拓
  - ④大活字本や視聴覚・音声資料の充実
  - ⑤中高年者創作グループの育成

## 9、地域の学習・情報拠点機能の充実

- ・住民の学習、文化、創造活動や情報交換、交流活動の場の活性化を図る。
  - ①社会教育、福祉施設との連携強化
  - ②講座、教室、研修会、映画会等の開催
  - ③図書館まっりの開催
  - ④持ち込み企画の奨励
  - ⑤デジタル化郷土資料の活用

## 10、管理運営体制の整備

- ・地域図書館としての機能を高めそれを住民に周知することにより、よりよき図書館運営を行う
  - ①生涯学習だより、要覧の発行
  - ②ホームページの管理運営
  - ③他館とのネットワークによる相互貸借の推進
  - ④ボランティアグループの育成

## 11、施設等の整備

- ・図書館として今の時代に適正な整備を行う。
  - ① 照明のLED化検討
  - ② BMの更新検討
  - ③ 図書館設備の安全性点検

## 資料

- 1、 第14期図書館運営3ヵ年計画の反省評価
- 2、 計画の体系 資料 1-1 資料1-2
- 3、 第10次社会教育5ヵ年計画抜粋
- 4、 図書館・生涯学習センター利用概況
- 5、 第15期蔵書購入計画（令和元年度から3年度）



## 1. 第14期図書館運営3ヵ年計画の反省・評価

第14期計画中に来館者30万人（平成31年1月）を迎えることができ、貸出冊数も累計300万冊（平成30年7月）を超えることができました。

しかし町自体の人口は3,039人、2,999人、2,920人と右肩下がりであり、また極端な少子高齢化社会となっています。

図書館の個人貸出冊数は28年47,160冊、29年42,893冊、30年44,444冊、人口一人当たりの貸出冊数は15.5冊、14.3冊、15.2冊と初年度、次年度はやや減少し最終年度に少し持ち直した状況となっています。

これは町外者への資料貸出が平成27年の北見中央図書館再オープンに伴い28年11,106冊（全体の23.5%）29年9,325冊（21.74%）30年10,588冊（23.8%）となっておりこれも一つの要因かとも思われます。

14期中に手がけた郷土資料デジタル化事業は15期中に一定程度の完成をみなければなりません。そのデジタル化資料をいかに有効に活用するかも次期以降の課題となります。

9年ぶりに「おけとこどものほんだな」も14期中に置戸小学校、図書館協議会の協力を得て改訂しました。その事業展開として同ほんだなに収録されている「赤いペン」の作者澤井美穂さん（置戸出身）を招いて講演会を開催しました。置戸の子ども達の読書の指針となるよう、さらに工夫が必要かと思われまます。

ここしばらく課題となっております高齢者への読書対策としては団体貸出の他に月に1回やまびこ号を常楽園に乗り入れ直接貸し出しをするようにしました。14期の初年度は常楽園からお話をいただいてバスで入所者が直接図書館に来るという方法でしたが、2年目からは図書館側からブックモバイルで来園するという方法をとっています。いずれにしろ置戸の人口構成から考えると高齢者への読書サービスの重要性は今後も高まっていくと考えられますのでさらに多様なサービス展開をしたいところです。

大活字本、DVD等も収集、提供してきましたが、今後さらに必要性は高まると考えられます。

書籍の購入については毎年5,000冊以上の購入が確保できました。除籍についても3年間で16,601冊と受け入れ冊数17,049冊とほぼ同数の除籍をおこない書架の新鮮さを保つことができましたと思います。地味で手間のかかる作業ながら図書館の根本に関わる業務なので、時代、町の方向にあわせた蔵書構成にしていかなければなりません。

職員数、人口問題、予算等厳しい面もありますが、地域課題を見据え山あいの図書館として精一杯図書館サービスを展開していきたいと考えております。

**図書館の設置及び運営上の望ましい基準**  
文部科学省（2012）

**市町村立図書館**

- 1、管理運営
  - (一) 基本運営方針及び事業計画
    - ・基本的な運営方針の策定及び公表
    - ・目標を設定し事業年度ごとの事業計画の策定及び公表
  - (二) 運営の状況に関する点検及び評価等
    - ・目標及び事業計画の達成状況等に関し点検及び評価
    - ・図書館協議会、その他の関係者による評価、公表
    - ・点検、評価に基づく運営の改善、公表
  - (三) 広報活動及び情報公開
  - (四) 開館日時等
    - ・地域の実情に配慮した開館日・開館時間、適切な周期による移動図書館の運行
  - (五) 図書館協議会
    - ・図書館協議会の設置による利用者、住民の要望の反映
    - ・図書館協議会委員に多様な人材の参画
  - (六) 施設・設備
    - ・サービスの水準を達成するための施設・設備の確保
    - ・高齢者、障がい者、乳幼児と保護者、外国人その他が図書館施設が円滑に利用できる施設の整備
- 2、図書館資料
  - (一) 図書館資料の収集等
    - ・資料の収集の方針策定、公表
    - ・十分量の資料の計画的な整備、郷土資料、地方行政資料、新聞、視聴覚資料の整備、郷土資料の電子化
  - (二) 図書館資料の組織化
    - ・図書館資料分類、配架、目録・索引の整備
- 3、図書館サービス
  - (一) 貸出サービス等
    - ・貸出サービスの充実、予約制度や複写サービスの運用
  - (二) 情報サービス
    - ・レファレンスサービスの充実、レファレルサービスの実施
  - (三) 地域の課題に対応したサービス
  - (四) 利用者に対応したサービス
  - (五) 多様な学習機会の提供
  - (六) ボランティア活動等の推進
- 4、職員
  - (一) 職員の配置等
    - ・館長は司書資格者が望ましい
    - ・司書、司書補の確保
  - (二) 職員の研修

**公立図書館の任務と目標**  
日本図書館協会（2004 改訂）

**市町村立図書館**

図書館サービス・・・住民の求める資料や情報を提供する

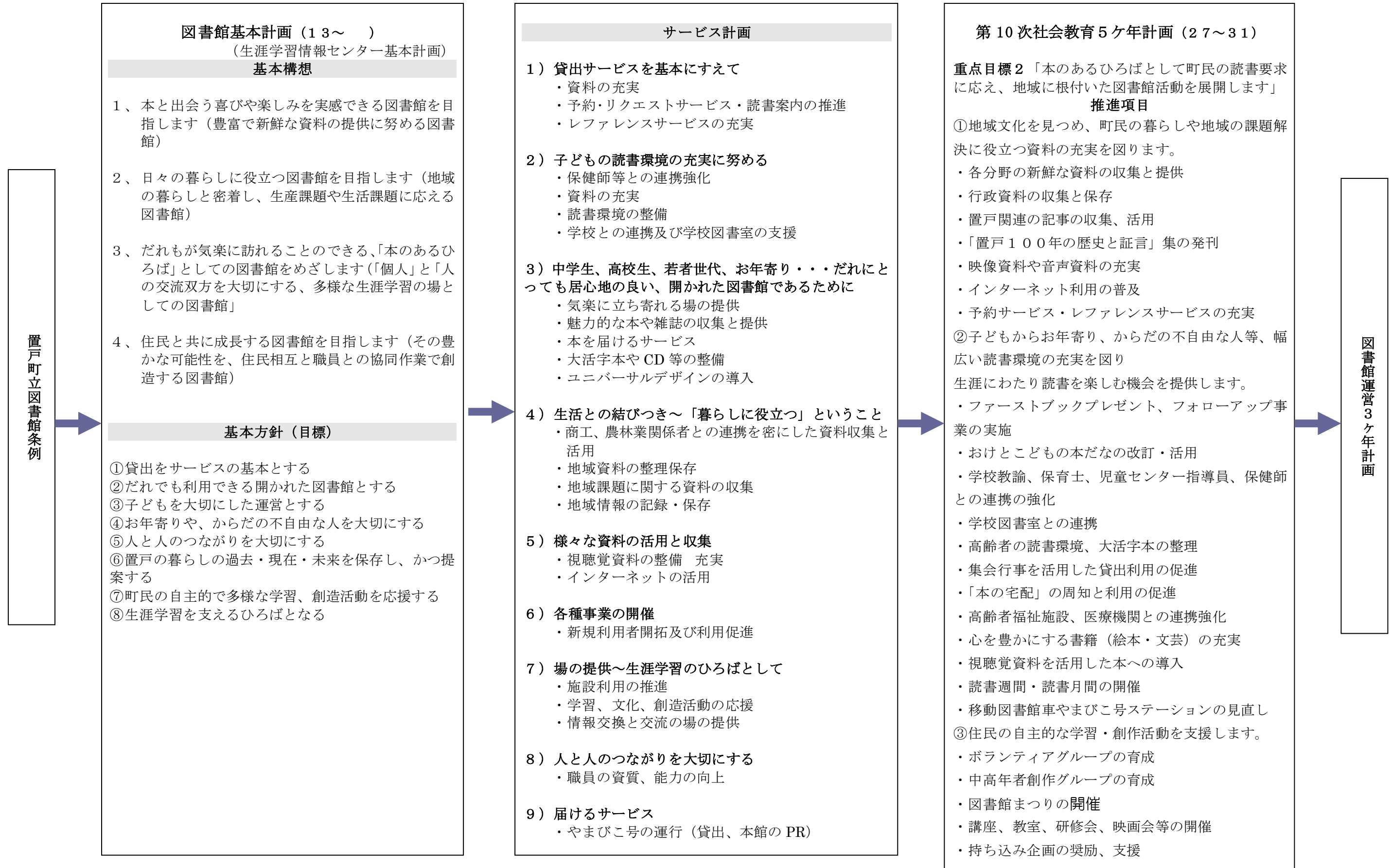
- 1、図書館サービスの基礎を築くのは貸出
- 2、集会行事を行うとともに図書館機能の宣伝、普及、利用案内を行う
- 3、学校図書館との連携をすすめ、児童生徒に対し利用案内を行うとともに求めに応じて学校における学習や読書を支援する
- 4、高齢者の資料、施設、設備、機材の整備充実ときめこまかなサービスの提供
- 5、障害者等の図書館利用の権利の保障
- 6、在日外国人等に対し有効なサービスを行う
- 7、住民が利用しやすい開館日、時間の設定
- 8、フロアサービス、レファレンスサービスを行う
- 9、所蔵をしていない資料も含めて予約できる体制を整える
- 10、求めに応じて団体や施設に対して貸出を行う
- 11、資料提供の一環として複写サービスを行う
- 12、住民の自主的な学習活動を援助するために集会機能をもつ
- 13、外部ネットワークの情報資源へ自由にアクセスできる環境を整備する
- 14、日常の問題解決に役立つ図書を備える
- 15、住民の関心に沿って、幅広く多用な雑誌を選んで備える
- 16、視聴覚障害者のための資料の収集に努める
- 17、地域に関する資料や情報の収集・提供に努める
- 18、所蔵資料が一元的に検索できるよう目録を整備する
- 19、住民の要求する資料を必ず提供するため、各市町村図書館が相互に協力しあう

図書館システム整備のための数値基準  
6, 900人

延床面積	1,080㎡
蔵書冊数	67,270冊
開架冊数	48,906冊
資料費	10,000千円
年間増加冊数	5,574冊
職員数	6人

**これからの図書館の在り方**  
これからの図書館の在り方検討協力会議（2012）

- 1、これからの図書館像
  - (1) 図書館活動の基本的在り方
    - ・出版物とともに電子情報の発信、保存もこれからの図書館の役割
  - (2) 図書館政策の在り方
    - ・地域の課題解決
    - ・教育政策、生涯学習政策のなかでの図書館運営の方向性、まちづくりや地域の振興
  - (3) 課題解決支援・情報提供機能の充実
    - ・学習機会の提供
  - (4) 電子情報の利用によるハイブリッド図書館の整備
    - ・印刷資料と電子資料の両方を統合して利用できる図書館（ハイブリッド図書館）へ
    - ・インターネット環境の整備
- 2、これからの図書館サービスの在り方
  - (1) レファレンスサービス
    - ・貸出とレファレンスのバランス
    - ・地域の課題解決
  - (2) 専門的情報の提供
    - ・広範な主題の専門情報の提供
  - (3) 閲覧・貸出・リクエストサービス
    - ・基礎的な図書館サービスとして充実させる必要性
  - (4) 児童・青少年サービス
    - ・児童サービス、読み聞かせの重要性
    - ・ヤングアダルトサービス
    - ・図書館利用教育
  - (5) 障がい者・高齢者・多文化サービス
    - ・図書館職員全員の理解
  - (6) 図書館資料の整備と提供
    - ・一定の資料費の確保、雑誌、地域資料の重要性



### 3. 第10次社会教育5ヶ年計画(2015~2019) (抜粋)

#### 社会教育目標

「ぬくもりと喜びを大切にし、生涯を通して学びあい、彩りある暮らしと活力あふれる地域をつくりましょう」

#### 基本方針

- ①地域にねざした学びで、自己を高め、彩りある暮らしづくりを進めます
- ②環境と資源を活かし、生産教育の機会を拡げ、潤いある地域づくりを進めます
- ③ふるさとの魅力を再発見し、地域力を高め、思いやりと笑顔に満ちたまちづくりを進めます

#### 重点目標

- ①生涯を通じていきいきと学び合い、生きがいを実感し喜びを共有できる地域づくりを推進します
- ②本のあるひろばとして町民の読書要求に応え、地域に根付いた図書館活動を展開します
- ③モノづくりのまちとしての知識や技術伝承、地域の資源を活かし、おけとらしい生産教育を推進します
- ④北の大地にたくましく生きる健康づくりとスポーツ振興を図ります
- ⑤ふるさとの魅力や価値を再発見し、未来を拓く人づくりを推進して、地域力を高めます
- ⑥学びを支える社会教育施設の整備と、職員体制の充実を図ります

重点目標2 本のあるひろばとして町民の読書要求に応え、地域に根付いた図書館活動を展開します

#### 【設定理由】

2015年4月に生涯学習情報センターから置戸町立図書館に名称が戻りました。

建設当時、もっとも有利な財源として選択した、国の過疎債使用の要件に図書館がなかったため止む無く生涯学習情報センターとして、運営してきましたが、10年の歳月を経て、図書館法に基づいた本来の姿に戻しました。

そこで、基本に立ち返り、重点目標は公共図書館として、さらには小さな町の図書館としての根幹にかかわる部分を直接的に言葉にしました。

公共図書館の役割である、情報・知識によって文化的でうるおいのある生活を維持し、乳幼児から高齢者まで、すべての年代の読書要求に応え、芸術や文学を鑑賞し、地域文化創造にかかわる場であることを再度目標とします。

小さな町の図書館として、置戸の地域文化を強く意識し、ここに住む人たち、あらゆる年代の読書要求、課題解決に役立ち、心豊かにする書籍・雑誌等を収集提供し、人づくりの観点からも、学びを通してさまざまな個性が育つことを

手助けします。

図書館サービスの原点を見つめなおし、以下の推進項目を展開してまいります。

#### 推進項目

①地域文化を見つめ、町民の暮らしや地域の課題解決に役立つ資料の充実を図ります。

- ・各分野の新鮮な資料の収集と提供
- ・行政資料の収集と保存
- ・置戸関連の記事の収集、活用
- ・「置戸100年の歴史と証言」集の発刊
- ・映像資料や音声資料の充実
- ・インターネット利用の普及
- ・予約サービス・レファレンスサービスの充実

②子どもからお年寄り、からだの不自由な人等、幅広い読書環境の充実を図り生涯にわたり読書を楽しむ機会を提供します。

- ・ファーストブックプレゼント、フォローアップ事業の実施
- ・おけとこどもの本だなの改訂・活用
- ・学校教諭、保育士、児童センター指導員、保健師との連携の強化
- ・学校図書室との連携
- ・高齢者の読書環境、大活字本の整理
- ・集会行事を活用した貸出利用の促進
- ・「本の宅配」の周知と利用の促進
- ・高齢者福祉施設、医療機関との連携強化
- ・心を豊かにする書籍（絵本・文芸）の充実
- ・視聴覚資料を活用した本への導入
- ・読書週間・読書月間の開催
- ・移動図書館車やまびこ号ステーションの見直し

③住民の自主的な学習・創作活動を支援します。

- ・ボランティアグループの育成
- ・中高年者創作グループの育成
- ・図書館まつりの開催
- ・講座、教室、研修会、映画会等の開催
- ・持ち込み企画の奨励、支援

#### 4. 図書館・生涯学習情報センター利用概況

【基礎数値】	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度	H26年度	H25年度	H24年度
①人口(H30.4.1現在)	2,920人	2,999人	3,039人	3,093人	3,147人	3,247人	3,317人
②登録者総数	2,299人 (町内1,642・町外657)	2,303人 (町内1,564・町外739)	2,224人 (町内1,506・町外719)	2,222人 (町内1,506・町外716)	2,876人 (町内1,918・町外958)	2,818人 (町内1,951・町外867)	2,668人 (町内1,880・町外788)
③本館来館者数	18,135人	18,380人	19,273人	18,843人	19,216人	20,940人	21,204人
⑥貸出冊数～個人利用分～ ( )内は本館・やまびこ号の内訳	44,444冊 (本42,573・や1,871)	42,893冊 (本41,428・や1,465)	47,160冊 (本45,539・や1,621)	48,611冊 (本46,504・や2,107)	48,167冊 (本46,267・や1,900)	53,117冊 (本50,882・や2,235)	51,811冊 (本48,576・や3,235)
⑦団体貸出	9,988冊	9,409冊	10,406冊	10,795冊	10,657冊	11,041冊	12,822冊
⑧蔵書総数 (配架ごとの概数:開架一般書62,804・準開架19,563、 開架児童書23,4542・準開架12,563 開架視聴覚架2,377・準開架67本)	120,828冊	120,753冊	120,348冊	120,380冊	122,724冊	124,217冊	122,083冊
⑨図書購入総数	5,311冊	5,251冊	5,070冊	5,135冊	5,100冊	5,336冊	5,502冊
⑩図書購入費(書籍および視聴覚資料)	8,496,604円	8,494,908円	8,499,948円	8,499,996円	8,499,930円	8,499,976円	8,499,784円
⑪その他資料購入費(紙芝居・雑誌・新聞・追録)	1,131,701円	1,114,000円	1,045,786円	1,085,287円	1,084,992円	1,092,279円	1,134,823円
⑫本館開館日数	277日	278日	279日	280日	277日	279日	282日
⑬やまびこ号巡回日数(ステーション数28ヶ所・延べ345ヶ所)	143日	155日	154日	148日	153日	160日	158日

※平成27年4月図書館条例施行

1. 登録率(登録者数÷人口) (※町民登録率)	78.7% (56.2%)	76.8% (52.2%)	73.2% (49.5%)	71.8% (48.7%)	91.3% (60.1%)	86.8% (60.0%)	80.4% (56.7%)
2. 住民一人当たりの貸出冊数(貸出冊数÷人口)	15.2冊	14.3冊	15.5冊	15.7冊	15.3冊	16.3冊	15.6冊
3. 登録者一人当たりの貸出冊数(貸出冊数÷登録者数)	19.3冊	18.6冊	21.2冊	21.9冊	16.7冊	18.8冊	19.4冊
4. 住民一人当たりの蔵書冊数(蔵書総数÷人口)	41.1冊	40.3冊	39.6冊	38.9冊	38.9冊	38.3冊	36.8冊
5. 住民一人当たりの資料購入費(図書購入費÷人口)	2,910円	2,833円	2,797円	2,748円	2,701円	2,617円	2,562円
6. 奉仕見積り額(図書購入平均単価×貸出冊数)	71,110,400円	69,390,990円	79,064,605円	80,421,205円	80,294,389円	84,615,381円	80,047,995円
7. 1日当たりの平均貸出冊数(貸出冊数÷稼働日数)							
1) 本館	153.7冊	149.0冊	163.2冊	166.0冊	167.0冊	182.4冊	172.3冊
2) やまびこ号	13.1冊	9.5冊	10.5冊	14.2冊	12.4冊	14.0冊	20.5冊
8. 1日当たりの平均利用人数(延人数÷稼働日数)							
1) 本館の来館者数	65.5人	66.1人	69.1人	67.3人	69.4人	75.1人	75.2人
2) 本館の貸出利用者	35.2人	34.6人	38.2人	35.8人	37.3人	39.8人	38.8人
3) やまびこ号の貸出利用者	5.6人	4.6人	5.8人	6.5人	5.7人	5.1人	6.6人

H23年度	H22年度	H21年度	H20年度	H19年度	H18年度	H17年度
3,390人	3,403人	3,434人	3,503人	3,577人	3,629人	3,736人
2,548人 (町内1,828・町外720)	2,420人 (町内1,796・町外624)	2,210人 (町内1,699・町外511)	2,164人 (町内1,663・町外501)	2,191人 (町内1,648・町外543)	2,094人 (町内一・町外一)	1,956人 (町内一・町外一)
21,289人	21,325人	21,063人	22,368人	22,583人	23,869人	26,732人
54,763冊 (本50,958・や3,805)	54,402冊 (本49,763・や4,639)	54,230冊 (本50,005・や4,225)	59,928冊 (本53,989・や5,939)	64,739冊 (本57,085・や7,654)	68,158冊 (本60,276・や7,882)	74,261冊 (本66,302・や7,959)
12,066冊	13,071冊	14,546冊	8,490冊	9,812冊	11,274冊	10,560冊
121,422冊	116,022冊	110,800冊	105,208冊	100,165冊	95,090冊	90,761冊
5,260冊	5,526冊	5,393冊	5,020冊	5,539冊	5,590冊	7,691冊
8,499,940円	8,499,996円	8,559,947円	8,499,981円	8,999,967円	8,999,862円	14,999,589円
1,098,479円	1,418,506円	1,357,051円	1,358,000円	1,360,406円	1,484,647円	1,453,637円
282日	283日	280日	280日	279日	278日	278日
148日	155日	152日	142日	120日	117日	126日

※平成16年10月生涯学習情報センター条例施行

75.2% (53.9%)	71.1% (52.8%)	64.4% (49.5%)	61.8% (47.5%)	61.3% (46.1%)	57.7% (46.3%)	52.4% (43.4%)
16.2冊	15.9冊	15.8冊	17.1冊	18.1冊	18.8冊	19.8冊
21.5冊	22.4冊	24.5冊	27.7冊	29.5冊	32.5冊	38.0冊
35.8冊	34.1冊	32.3冊	30.0冊	28.0冊	26.2冊	24.3冊
2,507円	2,498円	2,493円	2,426円	2,516円	2,480円	4,015円
88,497,008円	83,670,276円	86,063,010円	101,458,104円	105,200,875円	109,734,380円	144,808,950円
180.7冊	175.8冊	178.6冊	192.8冊	204.6冊	216.8冊	238.5冊
25.7冊	29.9冊	27.8冊	41.8冊	63.8冊	67.4冊	63.2冊
75.5人	75.4人	75.2人	79.9人	80.9人	85.9人	96.2人
40.5人	40.0人	41.4人	46.2人	47.3人	48.1人	53.6人
9.1人	9.2人	11.7人	18.6人	18.7人	17.3人	

### 第15期蔵書購入計画

区 分	第15期3カ年計画	R 1	R 2	R 3
購入冊数 (14期計画)	15,000	5,000 (5,000)	5,000 (5,000)	5,000 (5,000)
寄贈冊数 (14期計画)	600	200 (200)	200 (200)	200 (200)
除籍冊数 (14期計画)	15,600	5,200 (5,500)	5,200 (5,200)	5,200 (5,200)
蔵書冊数 (年度末実績) (14期計画)	120,000	120,000 (h29:120,348) (114,000)	120,000 (h30:120,753) (117,000)	120,000 (h31:120,828) (120,400)
資料購入費 (14期計画)	25,500千円	8,500千円 (8,500千円)	8,500千円 (8,500千円)	8,500千円 (8,500千円)
基金繰入額 (14期計画)	6,000千円	2,000千円 (2,000千円)	2,000千円 (2,000千円)	2,000千円 (2,000千円)
分類区分				
K・H	(50) 50	(20) 20	(10) 10	(20) 20
0	(180) 180	(60) 60	(60) 60	(60) 60
1	(280) 280	(100) 100	(100) 90	(90) 90
2	(650) 650	(220) 220	(220) 210	(210) 220
3	(1450) 1,410	(480) 470	(480) 470	(490) 470
4	(920) 920	(300) 300	(310) 310	(310) 310
5	(1400) 1,440	(470) 480	(470) 480	(460) 480
6	(650) 640	(220) 210	(210) 220	(220) 210
7	(1160) 1,170	(390) 390	(390) 390	(380) 390
8	(150) 130	(50) 40	(50) 50	(50) 40
9	(3400) 3,510	(1,140) 1,170	(1,140) 1,170	(1,120) 1,170
E・J	(4400) 4,290	(1,460) 1,430	(1,460) 1,430	(1,480) 1,430
PS	(90) 90	(30) 30	(30) 30	(30) 30
V	(220) 240	(70) 80	(70) 80	(80) 80
計	(15000) 15,000	(5,000) 5,000	(5,000) 5,000	(5,000) 5,000

( ) 第14期計画数値 (h28、h29、h30)